

野菜市



花いっぱい運動



Environmental report

# いけだ かんきょう レポート 2020

リユースと食のマルシェ



令和4年  
(2022年)  
3月

Ikeda City  
池田市

かんきょうレポート  
Web版はこちら

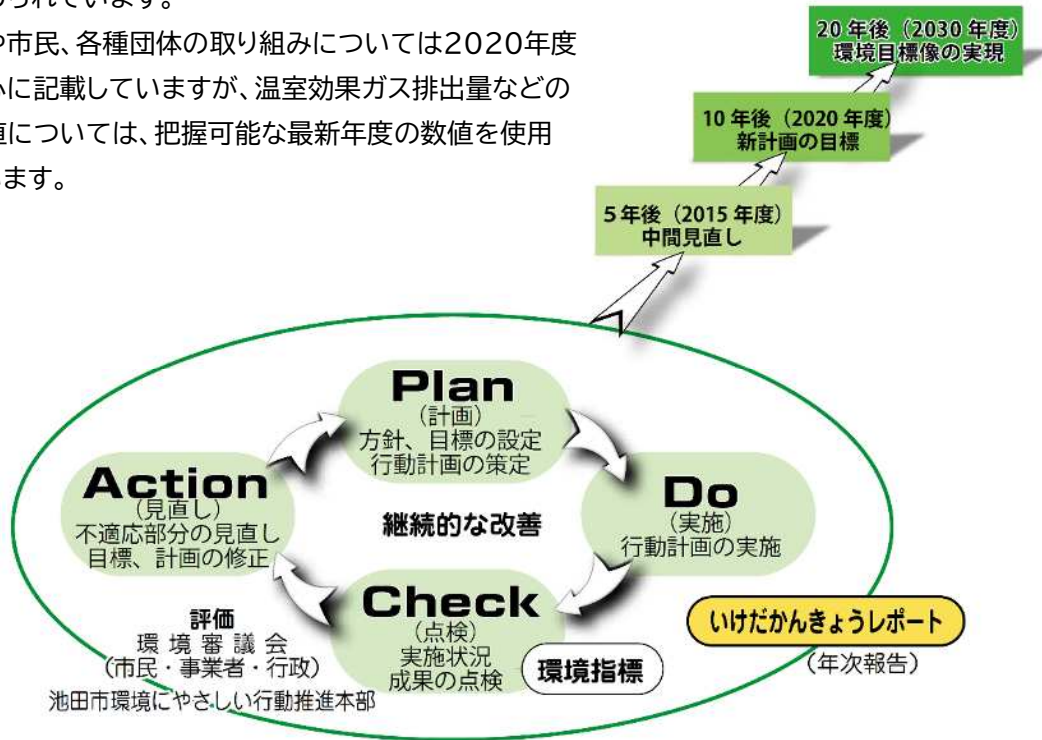


# I いけだかんきょうレポートとは

「いけだかんきょうレポート」は、池田市内における環境に関する取り組みを報告するものです。多くの方々に市内の取り組みを知っていただくとともに、もっとたくさんの方々に環境に関する取り組みを広めること、また『池田市新環境基本計画』の進み具合を見直して、より良い取り組みにつなげることなどを目的に、毎年発行しています。

※この報告書の作成は、『池田市環境基本条例』及び『池田市新環境基本計画』で定められています。

※行政や市民、各種団体の取り組みについては2020年度を中心に記載していますが、温室効果ガス排出量などの統計値については、把握可能な最新年度の数値を使用しています。



## ～ いけだかんきょうレポート 2020 目次～

I いけだかんきょうレポートとは.....	1
II 環境基本条例について.....	2
III 新環境基本計画の概要.....	3
IV 環境指標の進捗状況.....	4
V 各分野の現状と主な取り組み	
1. ともに学びあい、行動しよう.....	7
2. 未来の子どもたちのために地球温暖化を防ごう ...	11
3. 環境にやさしい循環型都市をめざそう .....	15
4. 豊かな自然を守り、育てよう.....	19
5. 人にやさしいまちづくりを進めよう .....	21

## II 環境基本条例について

2016年6月、新環境基本計画や環境に関わる各種取り組みの根幹となる『池田市環境基本条例』が制定されました。この条例は、環境の保全及び創造についての基本理念、市、市民及び事業者の責務並びに施策の基本的事項を定め、その施策を総合的かつ計画的に推進することにより、健康で文化的な生活を営むことのできる良好な環境を確保し、地球環境の保全に貢献することを目的としています。

池田市環境基本条例の骨子(抜粋)		
基本理念	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 市・市民・事業者が環境に関わる問題について知り、参画と協働のもとに取り組む。</li><li>2. 地球環境の保全に貢献する。</li><li>3. 環境への負荷が少なく持続的に発展することが可能な社会の実現に貢献する。</li><li>4. 人と自然との共生を図る。</li><li>5. 健康で文化的な生活を営むことのできる生活環境を将来の世代へ継承していく。</li></ol>	
責務	市	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 環境の保全・創造に関する施策の策定・実施。</li><li>・ 公共事業における環境の保全・創造への配慮、環境負荷の低減。</li><li>・ 必要な体制整備や財政上の措置。</li><li>・ 国・地方公共団体、その他国内外の公的機関との協力による施策の推進。</li></ul>
	市民	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日常生活における環境への負荷の低減。</li><li>・ 市が実施する施策への積極的参画や協力。</li><li>・ 市民が相互に、又は市や事業者と協働して地球環境の保全のための活動に取り組む。</li></ul>
	事業者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業活動に伴う公害の防止や環境への負荷の低減。</li><li>・ 市が実施する施策への積極的参画や協力。</li><li>・ 市及び市民と協働して地球環境の保全のための活動に取り組む。</li></ul>

池田市例規集  
トップページ  
にアクセス  
できます。 →



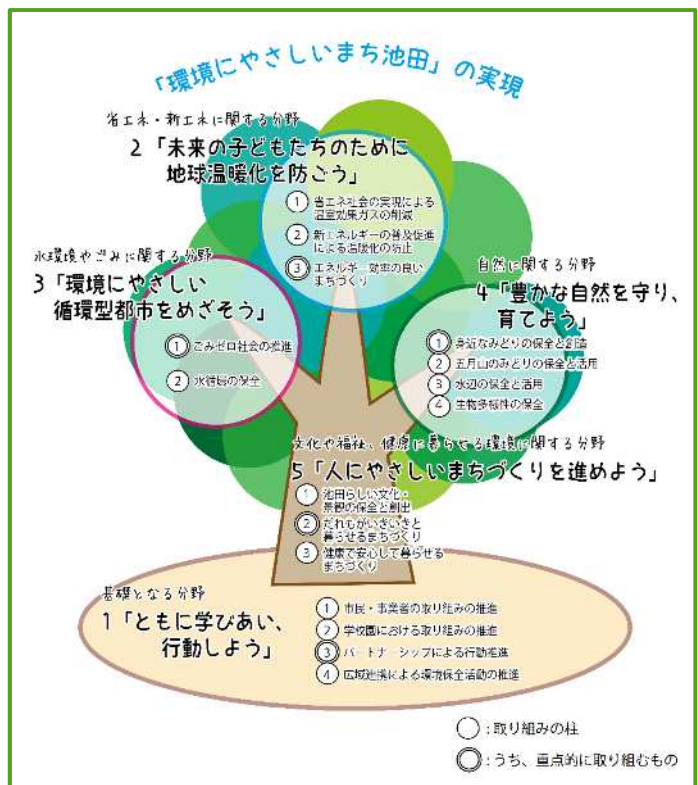
# Ⅲ 新環境基本計画の概要

## 【環境目標像】

『池田市新環境基本計画』では、「今日の目標を明日の当たり前」をキャッチフレーズとして、2030年度の実現を目指し、5つの環境目標像を設定しています。

## 【施策の柱と重点施策】

環境目標像の実現に向けた取り組みの体系として、5つの分野及び各分野において施策の柱と重点施策を設定しています。



## 【計画の期間】

2010年度に策定した『池田市新環境基本計画(第2次計画)』は、その10年後にあたる2020年度までを計画の期間と定めており、本レポートの報告年度である2020年度は、第2次計画の目標年度にあたります。

池田市環境基本計画(第1次計画)では、池田の環境目標像の実現を2030年度に置いており、その実現に向け、今後も環境に関する取り組みを推進していきます。



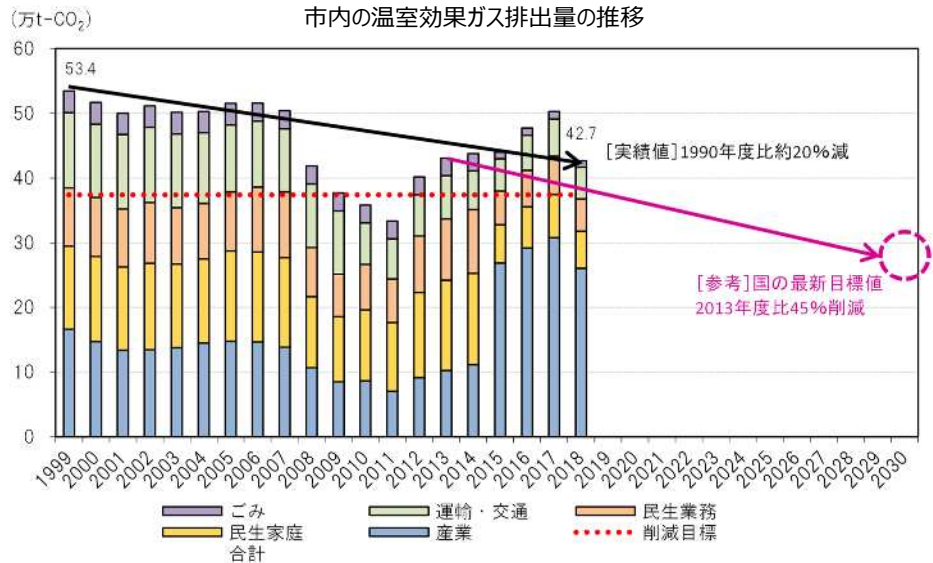
※本レポートを発行している2021年度は、池田市環境基本計画(第3次計画)の計画期間に移行しています。

# Ⅳ 環境指標の進捗状況

## ①市内の温室効果ガス排出量

この指標は、池田市内の温室効果ガス排出量を、2020年度までに1999年度比で30%削減を目指すものです。

2018年度は基準年と比べると約20%の削減となりましたが、環境目標像の実現に向けて、COOL CHOICE(省エネ型の製品・サービスやライフスタイルの選択を推進する国民運動)の普及啓発を図るなど、市全体での温室効果ガス排出量削減を継続して推進します。



## ②市内の太陽光発電出力

この指標は、池田市内の太陽光発電出力が、2020年度までに12,000kWとなることをめざすものです。

2020年度は前年度に比べて約500kW増加しました。2014年度には国による太陽光発電システムに係る補助制度が終了し、固定価格買取制度に基づく電力も減少傾向にあります。引き続き補助制度の継続や広報などを通じて普及拡大を目指します。

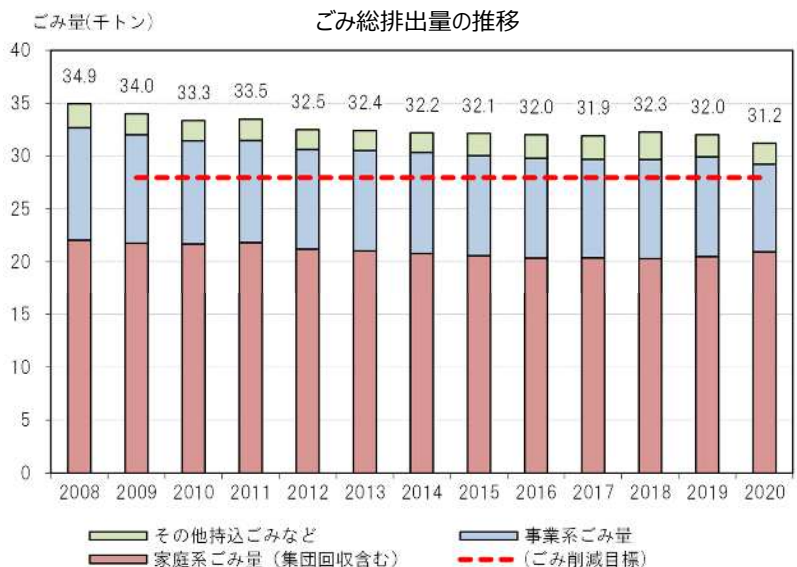


## ③市内のごみ排出量

この指標は、市内のごみ排出量(クリーンセンターに持ち込まれる各種ごみ)を、2020年度までに2008年度比で20%削減することをめざすものです。

2020年度は前年度から808トン減少し、31,206トンとなっています。2008年度比では10.7%(前年度は8.4%)削減されましたが、目標の20%削減は達成できませんでした。

今後もさらなる減量を目指し3Rの取組を進めます。



#### ④市内の事業系ごみ排出量

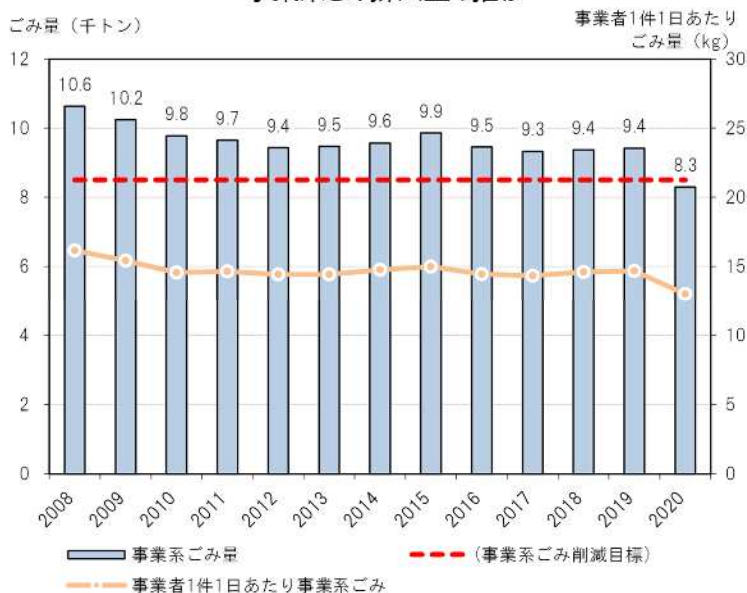
この指標は、市内事業者から排出される事業系ごみ(一般廃棄物)排出量を、2020年度までに2008年度比で20%削減することをめざすものです。

2020年度の排出量は前年度から1,122トン減少し、8,300トンとなっています。2008年度比では21.9%(前年度は11.4%)削減され、目標の20%削減を達成しました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う事業活動の縮小等が要因の一つとして考えられますが、当初目標である2008年度比で20%の減量を達成しました。

今後も、多量排出事業者制度による取組を進め、減量に努めます。

事業系ごみ排出量の推移



#### ⑤市内のリサイクル率

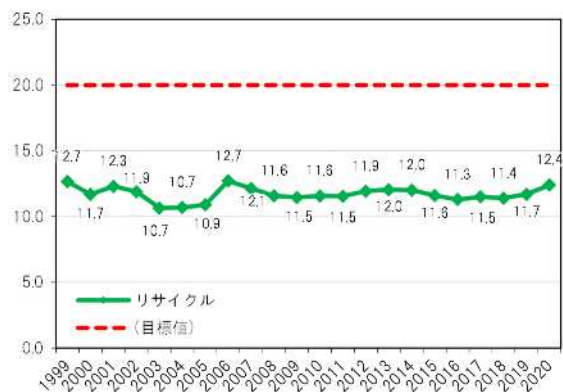
廃棄物の中には、処分前に分別回収をすることで再度資源として活用できるものが多くあります。

この指標は、2020年度までにリサイクル率を20%にすることをめざすものです。

2020年度の資源化量は前年度から122トン増加して3,859トンに、リサイクル率は前年度から0.7%上昇して12.4%となり、これまで以上にリサイクル率は向上しているところですが、目標の20%は達成できませんでした。

資源物の約1/3が地域の各種団体による集団回収で集められているため、今後も集団回収実施団体の増加等リサイクル率の上昇に努めます。

市内のリサイクル率



## ⑥市内のまちの緑被率

市街地の実質的なみどりの総量を測ることを目的に、空中写真の解析へと手法を変え、2017年度に池田市独自で調査し、16.9%(市街化区域)であることが把握できました。「まちの緑被率(市街化区域の緑被率)」20%の維持が目標です。

一定規模以上の開発にあたっては緑化協定を、風致地区では基準の遵守に努めていただくとともに、みどりの風促進事業や花いっぱい運動なども推進し、緑豊かなまちづくりを進めていきます。

市内のまちの緑被率

	対象区域 (万㎡)	緑被面積 (万㎡)	緑被率 (%)	緑被率 目標値 (%)
市全体	2,209	1,142.1	51.7	-
市街化区域	1,088	183.9	16.9	20.0
市街化調整区域	1,121	956.2	85.3	-

## ⑦市内のまちかどの緑視率調査地点数

緑視率とは、交差点などのまちかどに立った人の視界に入ってくる、植物の緑の割合のことです。この指標は、学校などに協力を求めて、2011年度から5年間で計200地点(2010年度に全市的に調査した地点数)の緑視率調査の実施をめざしたものです。

2017年度で目標は達成となりましたが、今後も出前授業の一つとして継続していきます。

市内のまちかどの緑視率調査地点数



## ⑧市内の生物多様性を示す指標

現在、生物多様性に関する取り組みについて、関係団体と協働して、生物多様性の情報収集や調査、研究などを継続して実施しています。

「ともに学びあい、行動しよう」

重点的な取り組み

「パートナーシップによる行動推進」

池田市では、様々な方々とのパートナーシップ体制のもと、環境への取り組みを進めています。  
2020年度も環境イベントや、NPO、地域の方々の協力のもと実施している出前授業など、市民・事業者と連携した取り組みを進めました。

例年掲載しております「いけだエコ自由研究フェア」及び「環境学習交流会」は、「いけだ環境交流会」として合同で実施しました。  
また、「中学校の職場体験学習」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止、「環境学習研究会」については書面にて開催となりました。

取り組みの進捗状況

池田市環境学習基本方針の達成状況

2015年3月に策定した「池田市環境学習基本方針」では「身近な自然や社会への理解を持ち、多様な視点から考え、行動できる人・地域づくり」を目標像とし、2030年度を目標年次とし、取り組みを進めていく中でそれらの効果が発現されているかを評価するために7つの達成目標を設定しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、感染対策のため、オンライン形式でイベントや講座を実施し、多くの方にご参加いただきました。

また、各小学校においても環境学習の出前授業が実施され、目標達成に一步近づきました。

指標	達成目標 (2030年度)	実施状況 (2020年度)
複数の時間・単元を活用した環境学習の実施数	全小学校で学年あたり3回	市内の小学校では50種類の出前授業や施設見学等が計81回行われ、学年あたり3回以上環境学習を行った学年は11学年となりました。
PTAや各種地域団体と連携した実践活動数	各校1件	3校で21学年実施されました。
一般向け講習・プログラム実施数、参加者数	年10回 延べ300人	エコミュージアムでは年間13回の講習・プログラムを開催し、参加者数は258人でした。
教員向け研修会の実施回数	年1回	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できませんでした。 次年度以降の開催に向けて、情報収集を行ってまいります。
実施者向け講習会、情報交換会等の実施回数	年1回	エコ活動報告会と環境学習交流会を同時開催とした「いけだ環境交流会」をオンラインセミナーとして実施し、89名からの申込みがありました。
環境学習に関する相談対応学年数	年30件	エコミュージアムへの相談件数は4件でした。 コロナ禍でも実施できるオンラインを活用した取り組みや、今まで以上に地域資源を活用した学習方法についての相談が寄せられました。 環境学習支援サイトである「池田市地域まるごと環境学習」からの問合せも増えてきたため、今後も同サイトでこまめな情報発信をし、有効活用してもらえるよう促していきます。
環境学習研究会の開催数	年1回	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催とし、2020年度の成果について情報共有を図りました。



2020 NEW 出前授業のパンフレット作成 (環境政策課)

小学校園での出前授業の活用を促進するため、教員向けに「出前授業メニュー2020」を作成し、市内の全小学校園に配布しました。



2020 NEW いけだ環境交流会 (池田市、池田市教育委員会、math channel、新潟大学理学部、NPO法人気象キャスターネットワーク)

2021年3月20日、いけだ環境交流会(エコ活動報告会×環境学習交流会)を開催いたしました。

本イベントは、地球環境問題に対する総合的な学習を目的とする講義や、新型コロナウイルス禍での池田市の環境学習の取り組みや環境活動報告を通し、参加者の環境配慮行動への意識向上と実践行動の促進を図る事を目的に開催しました。

地球環境問題に対する総合的な学習講義では、気象キャスターの蓬萊大介氏を講師に迎え、「命を守る、空からのメッセージ」と題した講義を行っていただき、89名の方にご参加いただきました。



2020 NEW 親子で学べるオンライン学習イベント(全2回) (池田市、池田市教育委員会、math channel、新潟大学理学部)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、集団でのイベントが開催できないなか、オンラインツールを用いて、市内の小学生やその保護者を対象にした、遠隔による科目横断型のオンライン学習イベントを実施しました。

2020年8月26日、第一弾となる「おうちでたのしく、さんすう×宇宙」を開催し、52名の方に参加いただきました。地球と他の惑星との大きさを家の中にあるボールやビー玉を使って比較する体験型ワーク等をmath channelの沼倫加氏に講義いただきました。

2020年12月19日には、第二弾となる「おもしろ！ふしぎ？実験 ロウソクの科学を学ぶ」を開催しました。

新潟大学理学部教授の大鳥範和氏と学生による「ロウソクの科学」を題材にした、「1本のロウソクの灯」について新潟大学実験室から実験を交えた講義を遠隔で実施いただきました。また、イベント終了後にエコミュージアムで回収している廃油を利用したキャンドルづくりのワークショップも開催しました。オンライン学習イベントは43名、そのうち18名の方にはワークショップへもご参加頂きました。



## 2020 NEW 【エコミュージアムの移転】

2020年4月、エコミュージアムは、市役所と池田駅前公園に近接した駅前北側エリアの拠点施設である中央公民館の1階という立地の良い場所で環境啓発を行うため、栄町商店街内から移転しました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一時臨時休館としましたが、移転後も引き続き、市民の皆さんが暮らしの中で無理なく楽しくできるエコを提案・実践しています。



エコミュージアムの  
ホームページに  
アクセスできます。 →



## 2020 NEW 【企画展示の実施】

エコミュージアム内及び中央公民館1階の展示コーナーにて、環境啓発を目的とした様々な企画展示を開催しました。

エコミュージアム内では、一人一人の地球温暖化対策に係る気付きと行動変容を目的に、環境省提供のイベント用展示ツールを活用して「いけだ COOL CHOICE展」を行いました。

また、中央公民館の展示コーナーでは、エコミュージアムにリユース品として寄付された和服や帯、それらをアップサイクルしたものなどを展示した「和の文化展」や、リユース品の地域内循環をテーマとした「衣と器展」などを開催しました。

企画展示において、物の活用の可能性などを示すことで、市民の皆さんへ3Rを推進しました。



## 2020 NEW 【出張エコミュージアム】

2020年11月27日～28日、オンライン形式で開催された「とよなか市民環境展」(NPO法人与よなか市民環境会議アジェンダ21主催)に参加し、エコミュージアム館内の様子や活動紹介をライブ配信しました。画面を通してその場で質疑応答もあり、後日実際に来館される方や電話でのお問い合わせが増えるなどの効果が見られました。



## 【環境講座の実施】

日常生活における環境配慮行動について、講座を通して具体的な方法を体験するとともに、日頃より実践に移してもらうことを目的として、多様な内容の環境講座を実施しました。

専門技術・知識を持つ方々を講師としてお招きし、環境に優しいものづくり工房を実施するなど、環境配慮行動の普及啓発に努めました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止としましたが、再開後も、参加方法を対面形式とオンライン形式の2種類から選択できるようにし、感染対策にも配慮しながら実施しました。



## 2020 NEW 【大学生インターンシップ受け入れ】

エコミュージアムにおいて、2021年2月～3月の2ヶ月間、大学1回生3名をインターンシップとして受け入れました。

オンライン講座の配信アシスタント、展示用の説明パネル作り、資料検索、ロゴ作成(右図)などに携わってもらいました。また、多様な世代との対面による交流により、人との接し方や対話を通した伝え方を体験しました。環境分野への関心が新たな知識と実践により深められ、SDGsなどの社会課題に対する向き合い方を学んでもらう機会となりました。



## 次のステップに向けて

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行っていたイベントや講座をオンライン形式で実施するなど、柔軟に対応しました。

引き続き、行政と学校や関連団体等との連携を深めながら、パートナーシップによる行動推進の強化を図ります。

## 2 「未来の子どもたちのために地球温暖化を防ごう」

### 重点的な取り組み

「エネルギー効率の良いまちづくり」

『池田市新環境基本計画』では、「エネルギー効率の良いまちづくり」を重点的な取り組みとしています。

2020年度も、太陽光発電システムや家庭用燃料電池システム、家庭用蓄電システム等の環境にやさしい設備の設置費補助を行い、エネルギー効率の良いまちづくりの推進に努めました。

### 取り組みの進捗状況

#### 太陽光発電システム設置費補助(住宅用)

(環境政策課)

住宅用太陽光発電システムの設置に対して出力1kWあたり20,000円、上限100,000円を補助しています。

2020年度は38件、合計218.30kWの太陽光発電システムが設置され、これは1年間で約116.8トンの二酸化炭素削減効果があると見込まれます。

#### 使用状況報告書による発電量および売電金額

太陽光発電システム設置費補助(住宅用)の利用者には、使用状況報告書の提出を義務付けています。

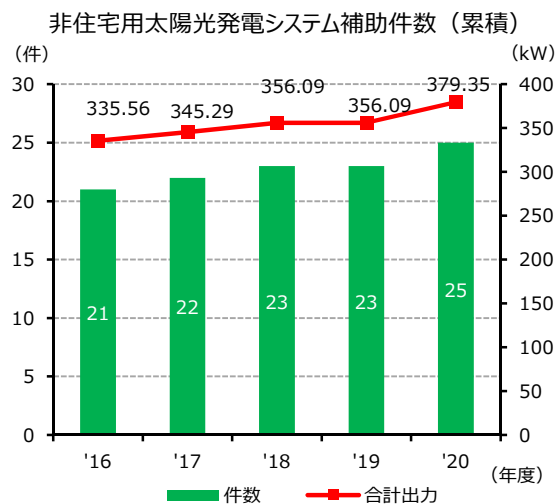
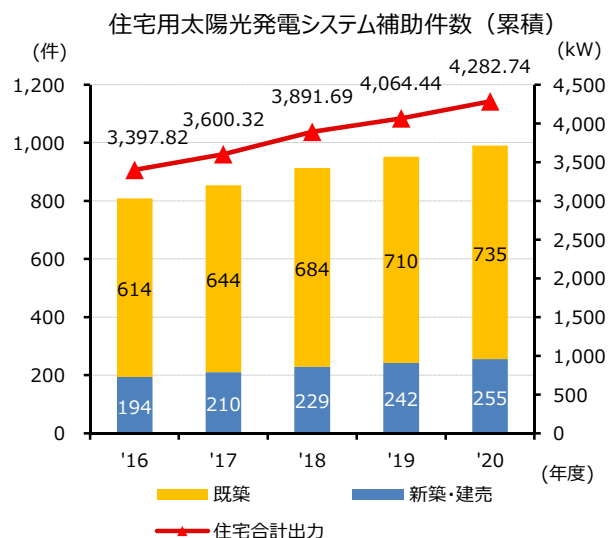
2019年度の数値を集計した結果、1家庭の設置設備における出力1kWあたりの年間平均発電量118kWhとなりました。また、1家庭の設置設備における出力1kWあたりの年間平均売電額は1,882円でした。

#### 太陽光発電システム設置費補助(非住宅用)

(環境政策課)

事業所や工場、集合住宅の共用部分など非住宅用の太陽光発電システムの設置に対して、出力1kWあたり20,000円で上限200,000円を補助しています。

2020年度の交付件数は2件でした。

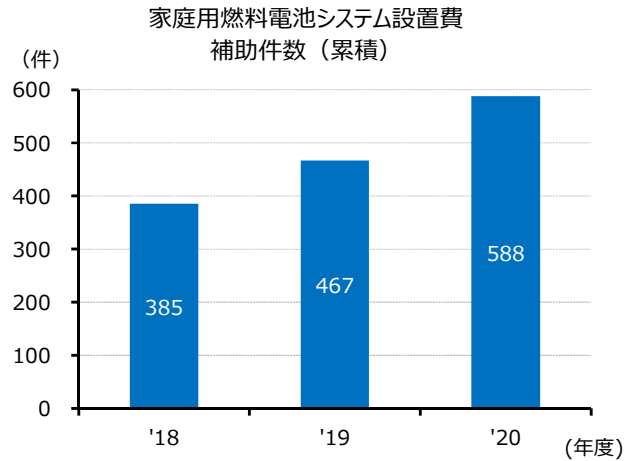


## 家庭用燃料電池システム設置費補助

(環境政策課)

エネルギー効率の良いまちづくりを目指し、家庭用燃料電池システムの設置に対して1台あたり50,000円を補助しています。

2020年度は、121件に補助金を交付しました。



2020  
NEW

## 家庭用蓄電システム設置費補助 (環境政策課)

2020年5月、家庭用蓄電システムに夜間電力を蓄えることで、電力需要がピークとなる昼間の電力使用量の減少を促すと共に、近年頻発している大規模災害に対する防災・減災の観点から需要が高まっていることを受け、家庭用蓄電システムの設置費補助を開始しました。

家庭用蓄電システムの設置に対して1台あたり50,000円を補助しており、2020年度は、42件に補助金を交付しました。



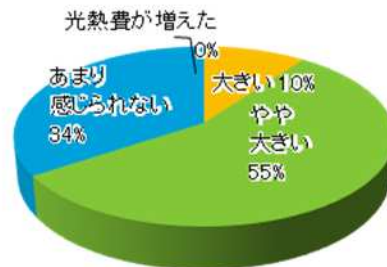
## 補助制度に関するアンケート

(環境政策課)

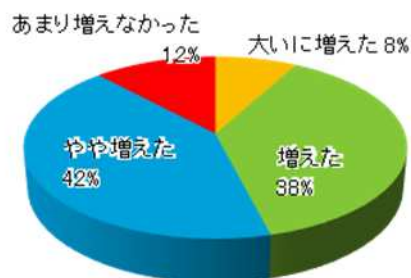
住宅用太陽光発電システム及び家庭用燃料電池システム、家庭用蓄電システムの設置費補助制度の利用者には、補助制度に関するアンケートの回答を義務付けています。

2020年度の補助利用者の回答を集計した結果、上記の補助制度を利用することによって、光熱費削減効果が大きいと感じている回答者は全体の約66%、環境について考える機会が増加した回答者は全体の約88%であることがわかりました。

制度についてのご意見などを頂いた自由記述欄では「設備の設置に係る費用は決して安価でないので、補助制度は非常に助かる。」「今後も補助を継続すると環境に配慮した家庭が増えるのではないかとと思う。」などのお言葉や、広報の充実、補助額の増額を求める内容のご意見を頂きました。



Q. システムの設置による光熱費削減効果はいかがですか？



Q. 補助制度を利用し、環境について考える機会が増えましたか？

## 市民共同発電所の発電

(池田新エネ推進協議会、環境政策課)

池田新エネ推進協議会では、池田市と協働で、市民・事業者等からの寄付を財源に市民共同発電所の設置を進めています。

現在は5機の市民共同発電所(合計33.1kW)が稼動しており、これは1年間で約23.79トンの二酸化炭素削減効果があると見込まれます。



## 池田・府市合同庁舎のエネルギー使用量

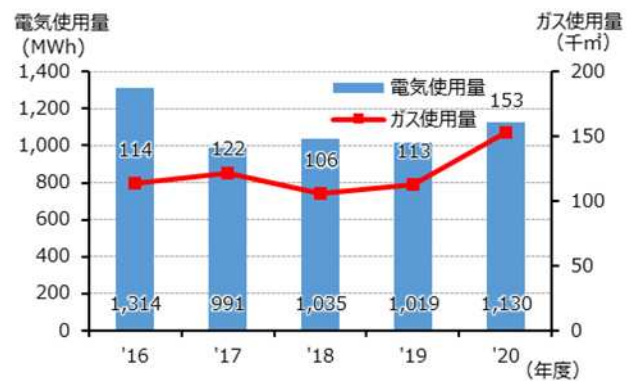
(池田市)

2020年度も池田市地球温暖化防止実行計画に基づき、庁舎の省エネルギー化に努めました。

しかしながら、前年度と比較して電気使用量は、111,070kWh増の1,130,670kWhに、ガス使用量は39,777m<sup>3</sup>増の153,567m<sup>3</sup>となりました。

新型コロナウイルス感染症対策として換気量が増加したこと、外気温や来庁者数などにも左右されますが、今後もエネルギー使用量削減への取り組みに努めてまいります。

池田市役所のエネルギー使用量



## 電気自動車用充電スタンド

(環境政策課)

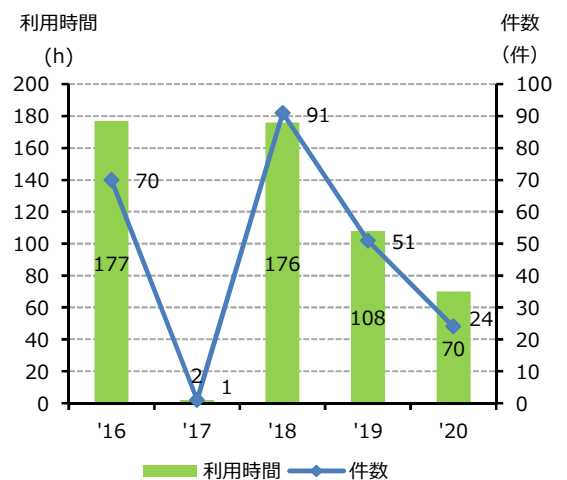
電気自動車の普及や多様なエネルギー源による車両の確保を目的として、池田・府市合同庁舎駐車場へ電気自動車用充電スタンドを設置しています。充電スタンドは事前予約制ですが、無料で利用いただけます。

2020年度は24件、約70時間の利用となりました。



← 池田市のホームページ内の  
関連ページにアクセスできます。

充電スタンドの利用実績



(※2017年度は庁舎工事によりスタンドの使用を長期停止)

## 池田市シェアサイクル実証実験

(OpenStreet株式会社、交通道路課)

池田市では企業と連携し、地域活性化や観光振興等に活用できる新たな交通システムとして、シェアサイクルの有効性や課題について検証することを目的とした実証実験を行っています。

利用者はスマートフォンから、自転車の利用予約から決済までの手続きを簡単に行うことができ、「ステーション」(右図参照)であればどこでも自転車を貸出返却することが可能です。

2020年度末時点で市内24ヶ所に「ステーション」を設置し、年間累計で約4,500回の利用がありました。

今後も利用動向を踏まえ、「ステーション」の増設など、移動手段の確保に向けて検討していきます。



← 池田市のホームページ内の  
関連ページにアクセスできます。

## 次のステップに向けて

日本では、温室効果ガス排出量を2030年度までに2013年度比で46%削減することを目指しています。

池田市においても、脱炭素社会の実現に向け、今後も社会情勢を注視しながら、市民の方にとってより役立つ形での地球温暖化防止施策の立案・推進に引き続き努めていきます。

# ③ 「環境にやさしい循環型都市をめざそう」

## 重点的な取り組み

### 「ごみゼロ社会の推進」

池田市では、ごみ排出量2008年度比20%削減を目指して各種ごみ減量施策に取り組んでいます。2020年度も、指定袋制度、集団回収補助制度などを引き続き実施し、ごみの減量に努めました。

## 取り組みの進捗状況

### 生ごみ処理機購入助成 (環境政策課)

ごみの減量化と資源化を推進するため、電気式生ごみ処理機の購入費用の1/2に相当する額(上限30,000円)を助成しています。2020年度は32件、合計661,000円を交付しました。

### 雨水貯留タンク設置費補助 (環境政策課)

雨水貯留タンクを設置し、花や植木の水やりや庭への散水など雨水の有効利用に取り組まれる方に購入費用の1/2に相当する額(上限30,000円)を助成しています。2020年度は4件、合計容量700リットルが設置されました。

2009年度の制度開始から2020年度までの間に合計容量23,514リットル分の設置があり、雨水を有効に利用いただいています。

※本事業は2020年度末をもって終了しました。

### 衣類等の寄付 (エコミュージアム、環境政策課)

中央公民館への移転を期に寄付の受付日と受付品目が改定されました。毎週水曜日と日曜日に、衣類・小物・鞆・食器(箱入りの未使用品)等のリユース品を寄付受付しています。

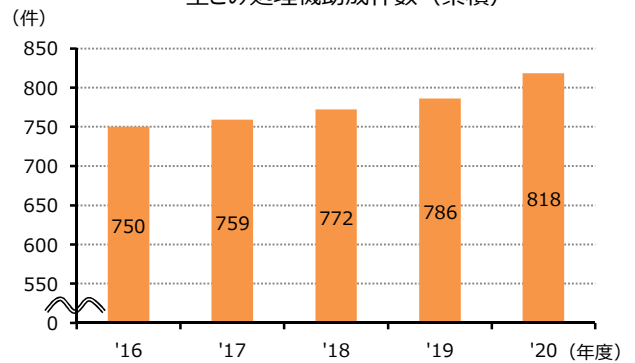
2020年度に回収した総数は11,028点であり、そのうち衣類は7,919点で、これは約29.8トンの二酸化炭素(CO2)排出を削減したことになります。

寄付品はエコミュージアム館内と2か月に1回開催の「リユースと食のマルシェ」にて販売し、その収益を市民共同発電所の設置やエコミュージアム事業活動に活用しています。

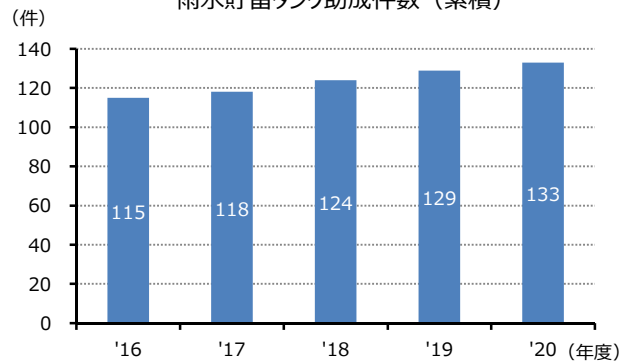
※現在、「リユースと食のマルシェ」は毎月(1月、8月は除く)開催しています。

例年掲載しております「打ち水大作戦」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

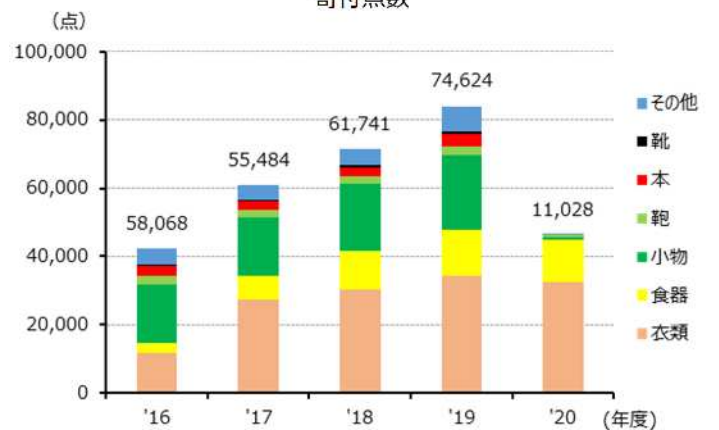
生ごみ処理機助成件数(累積)



雨水貯留タンク助成件数(累積)



寄付点数



(※エコミュージアムの移転に伴い、2020年度以降は回収品目を縮小しています。)



### 使用済み天ぷら油の回収

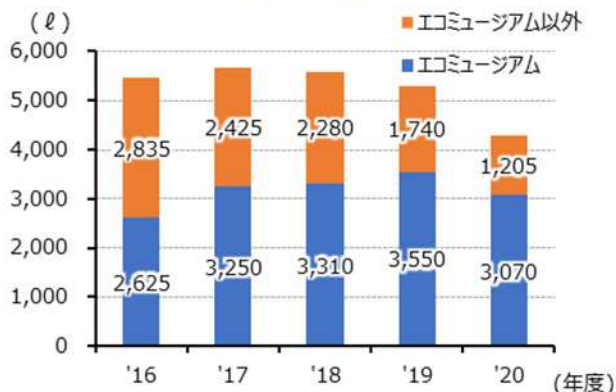
(エコミュージアム、市内小学校PTA(石橋小学校、五月丘小学校、石橋南小学校、ほそごう学園)、阪急バス、環境政策課)

エコミュージアムでは開館時は常時、市内小学校4校では月1回(3月、8月は除く)使用済み天ぷら油の回収を行っています。

2020年度に回収された使用済み天ぷら油は、4,275リットルでした。

回収された天ぷら油は、BDF(バイオディーゼル燃料)にリサイクルしており、市内を走る阪急バスにも利用されています。

天ぷら油回収量



← 池田市のホームページ内の  
関連ページにアクセスできます。

### リユース食器の貸し出し (エコミュージアム)

エコミュージアムでは、市内及び近隣市で開催されるイベントで、リユース食器の貸し出しを行い、ごみの分別回収、排出削減の取り組みを行っています。

しかしながら、2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、イベント等や食品の提供が軒並み中止されたため、運用開始以来初めて貸し出し回数が0回となりました。

リユース食器の貸出状況

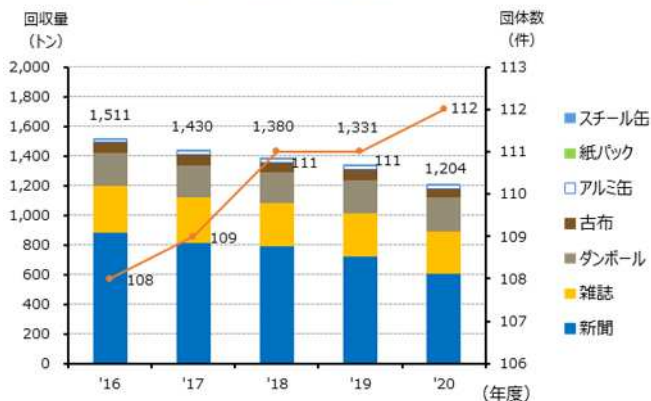


### 集団回収量 (環境政策課、集団回収団体)

再生可能な有価物を集団回収している団体に補助金を交付することで、ごみの減量化を推進するとともに、団体育成やリサイクル意識の啓発を図っています。

2020年度は、112団体に補助金を交付し、約1,204トンの資源物が回収されました。

集団回収量と活動団体数

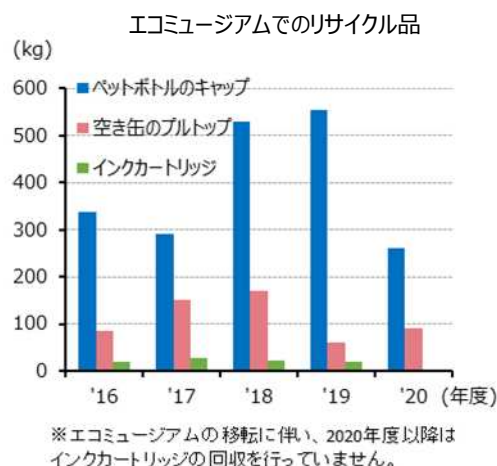


## リサイクル品の各種回収

(エコミュージアム、池田市理容組合、東山作業所)

エコミュージアムでは、諸団体と連携してリサイクル品の回収を行っています。ペットボトルのキャップは東山作業所に回収・仕分けしていただき、当該施設の事業費に、プルトップは大阪府理容組合に回収していただき、車いすの寄付事業に使われています。

2020年度は、ペットボトルのキャップ260kg、プルトップ90kgを回収しました。



### ペットボトルキャップ

回収したものは東山作業所にて仕分け・洗浄した後、リサイクル業者へ引き渡し、プランターなどにリサイクルされています。引取り費用は東山作業所の活動資金として活用されています。

### プルトップ

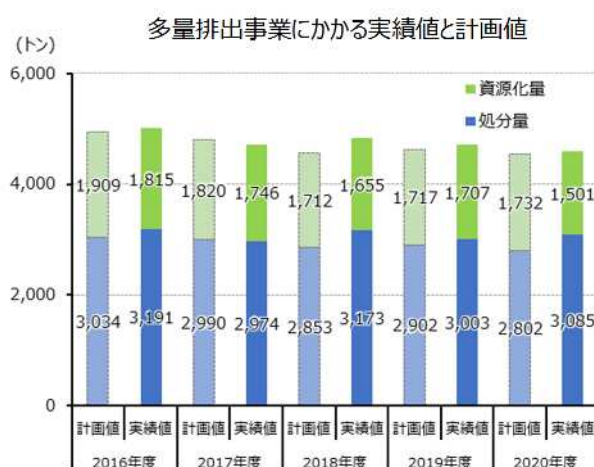
回収したものは池田の理容組合がまとめてリサイクル業者へ引き渡しリサイクルされています。その引取り費用で車いすを購入し寄贈する活動が行われています。

## 多量排出事業者制度

(環境政策課、多量排出事業者)

事業系ごみ(一般廃棄物)の排出量が月間3トンを超える事業者に対して、事業系一般廃棄物減量計画書の作成及び実績報告書の提出を義務付けています。

2020年度は、17社:2802tの計画値が掲げられていましたが、実績としては17社:3085tとなり、計画値を上回りました。



## 新鮮野菜市

(エコミュージアム)

食の地産地消を促進させ、食品の廃棄量を極力減らすための取り組みとして、池田市内や近郊でとれた野菜、米等を販売しました。

2020年度から参加団体が5件増えました。



2020  
NEW

## リユースと食のマルシェ (エコミュージアム)

2020年度より、池田駅前公園にて、エコミュージアムに寄付のあったリユース品や近郊野菜の販売などを行う、環境関連イベント「リユースと食のマルシェ」を開催し、3Rの推進を行いました。

2020年度の開催は7回を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催実績は計3回となりました。

2020  
NEW

## フードドライブ (エコミュージアム)

2020年10月より、エコミュージアムやイベント内において、家庭で余っている食品の寄付を募り、寄付品を市内の子ども食堂やおとな食堂、社会協議福祉会へ寄付するフードドライブを開始しました。

2020年度は、29名から135品目の寄付があり、そのうち43品目が利用されました。

さらに、より食品の提供先を拡充するため、2021年1月に「いけだフードドライブ・ネットワーク」を立ち上げ、市内の団体に登録を呼びかけることで、食品の循環を促進しました。

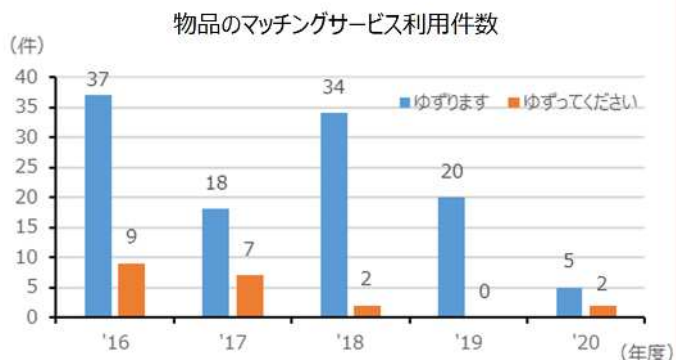
また、池田市内の独居、2人住まいの高齢者への食事提供をしているおとな食堂、「ゴールデン食堂」にて、食事の配膳や片付け等を手伝えました。加えて、フードドライブでの寄贈品を使ったメニューを取り入れてもらい、食品ロス削減への取り組みに協力して頂きました。

2020  
NEW

## 物品のマッチングサービス (エコミュージアム)

家庭で不用となった物品を、必要としている人に引き渡すため、「ゆずります・ゆずってください」というマッチングシステムの運営により、物品の循環を促しました。

2020年度において、「ゆずります」は利用件数5件のうち1件が、「ゆずってください」は利用件数2件のうち1件が、取引成立しています。



### 次のステップに向けて

ごみの減量化を進めるには、制度面および意識啓発の双方の取り組みが重要となります。

今後も、指定袋制度や分別収集などの取り組みを進めるとともに、ホームページや広報誌、イベント、出前授業などによる啓発に取り組んでいきます。

## 4 「豊かな自然を守り、育てよう」

### 重点的な取り組み

#### 「身近な緑の保全と創造」

2020年度も、市民団体と協働で緑化やビオトープの整備などに取り組み、潤いのあるまちづくりの推進に努めました。

### 取り組みの進捗状況

#### 山麓・山間緑地保全区域内の土地の購入・寄付 (公園みどり課)

五月山の身近な自然を守るために取り組んでいます。

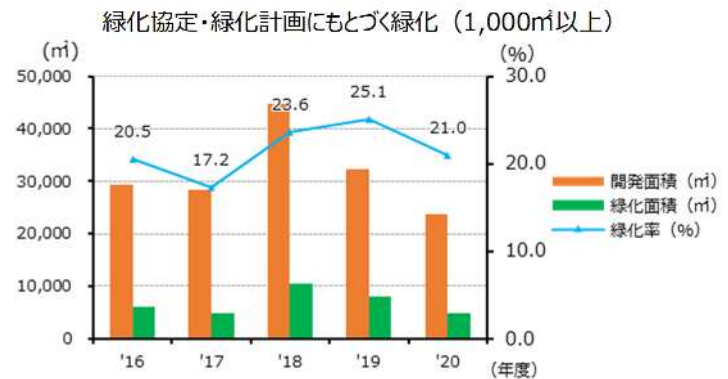
なお、2020年度の山麓・山間緑地保全区域内における市所有林の増減はありませんでした。

例年掲載しております「池田の自然展」と「寄せ植えコンテスト」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。



#### 緑化協定、緑化計画 (公園みどり課)

市環境保全条例に基づき、開発行為等を行う土地で面積が1,000㎡を超えるものは緑化協定の締結を、1,000㎡以下で条例に該当するものは緑化計画書の提出を義務づけ、敷地面積の20%以上の緑地を設けるように指導しています。



#### 花いっぱい運動 (公園みどり課、市内25市民団体)

コロナ禍の影響で、活動を自粛された一部市民団体もありましたが、花苗・資材等の配布により、協働で緑や草花による潤いあるまちづくり推進の為、活動しました。



## 花いっぱい運動支援事業

(ほそごう・秦野・北豊島・くれは・五月丘・石橋南・神田の  
各地域コミュニティ推進協議会)

花苗や肥料などを地域コミュニティ推進協議会に提供し、地域や学校などで花を育て緑化を進めています。



## 貸し農園

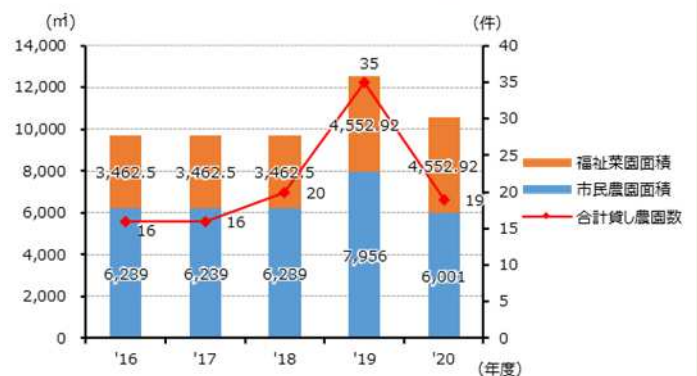
(農政課)

2005年の法改正により、農家などが農業委員会の承認を得て農地を貸すことができるようになりました。

また、2018年には都市農地の貸借の円滑化に関する法律の制定により、相続税納税猶予制度が適用されている農地も貸すことができるようになり、貸し農園とすることのできる農地が増加しました。

市内の市民農園をはじめとする貸し農園は、2020年度は19件、10,553.92㎡となっています。

貸し農園面積と農園数（累積）



## ビオトープ事業

(ほそごう地域コミュニティ推進協議会(細河地区))

細河地区の環境資源を活用し、地域の活性化を目的として、2007年度の協議会立ち上げからビオトープで蛍の育成を始め、2018年度から場所を変えてビオトープの整備事業を行っています。

2020年度はメダカの育成とともに、池全体に野生動物の侵入を防ぐ網を増設し、ハスの栽培を手掛けました。



## 次のステップに向けて

花いっぱい運動などを通じて、市民に緑を身近に感じてもらうことが出来ました。

今後も、自然や緑に関心を持ってもらうためのイベントや事業も継続して実施し、里山保全や緑化の推進に取り組んでいきます。



# 5 「人にやさしいまちづくりを進めよう」

## 重点的な取り組み

「だれもがいきいきと暮らせるまちづくり」

2020年度も、災害対策面の強化や交通施策の拡充を図りました。

また、各種環境測定を実施し、健康で安心して暮らせるまちづくりに取り組みました。

## 取組の進捗状況

2020 NEW

### マイタイムラインの作成

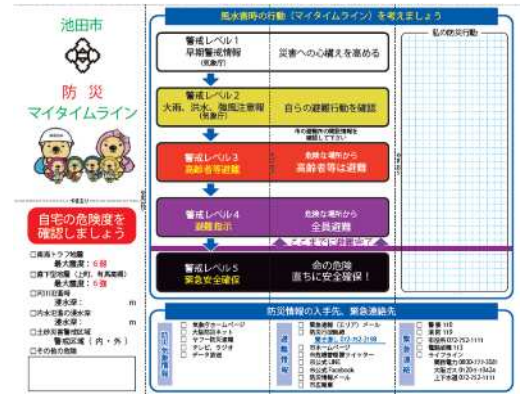
(危機管理課)

台風や大雨などの風水害時に、市民一人一人が身の回りで起こりうる危険に「気づき」、災害発生に「備え」、速やかに「行動」できるよう、自身の行動を時系列に整理する「マイタイムライン」を作成しました。



← 池田市のホームページ内の  
関連ページにアクセスできます。

例年掲載しております「さつき展・農業祭」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。



2020 NEW

### 防災備蓄倉庫の整備

(危機管理課)

防災備蓄物資の保管やスムーズな救援物資の受け入れのため、災害が起きた際に本市の拠点となる防災備蓄倉庫を、細河小学校跡地に整備しました。

今後、大規模な災害に備え、必要な物資の備蓄を行っていきます。



2020 NEW

### MaaSの実証実験

(伏尾台地区 地域内交通運営協議会、交通道路課)

高齢化が進む伏尾台地区において、地域住民のお出かけの交通手段を確保するため、ボランティアドライバーが無償で伏尾台センターまで地域住民を送迎する住民主体の「らくらく送迎」に、IT技術による予約・配車システムなどを活用したMaaSの実証実験を行いました。

2018年10月に実施した、MaaSの先駆けである「シェアリングエコノミーの実証実験」に引き続き、国や府の補助を受け、2020年度に実証実験を行いました。現在も、ボランティアドライバーによる「らくらく送迎」が行われています。



2012年4月から、神田大気観測局にて微小粒子状物質(PM2.5)の測定を開始しました。測定結果の速報値は、池田市のホームページ(<http://kankyo-ikeda.jp>)で見ることができます。

なお、2014年4月からは神田大気観測局に加えて、大阪府が設置している南畑会館測定局でのデータも同ページで公開しています。

PM2.5の環境基準には短期基準と長期基準の2つがあり、この両方を満たすことが環境基準への適合となりますが、2020年度も両方の基準を満たし、環境基準に適合しました。

神田大気観測局測定結果

年度	年平均値	有効測定日数	日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		日平均値の年間98%値	日平均値の最高値	環境基準適合状況	
	$\mu\text{g}/\text{m}^3$		日	日	%	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	短期
2013	16.2	365	14	3.8	37.5	55.2	×	×
2014	15.1	363	7	1.9	33.2	47.9	○	×
2015	14.0	364	7	1.9	35.0	39.5	○	○
2016	12.2	363	0	0.0	28.1	61.0	○	○
2017	12.9	363	1	0.3	30.0	41.9	○	○
2018	12.5	362	0	0.0	28.4	33.4	○	○
2019	11.1	363	1	0.3	29.9	50.1	○	○
2020	10.9	363	3	0.8	28.8	43.0	○	○

### PM2.5

大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径が2.5 $\mu\text{m}$ (=0.0025mm)以下の微小な粒子のことです。粒径が小さいため(髪の毛の1/30程度)、肺の奥深くまで入りやすく、健康被害が懸念されます。発生源はボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設や自動車等の人為起源のものと、土壌、海洋等の自然起源のものがあります。

#### <環境基準>

1年平均値15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下(長期基準)かつ、1日平均値の年間98%値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下(短期基準)であること。



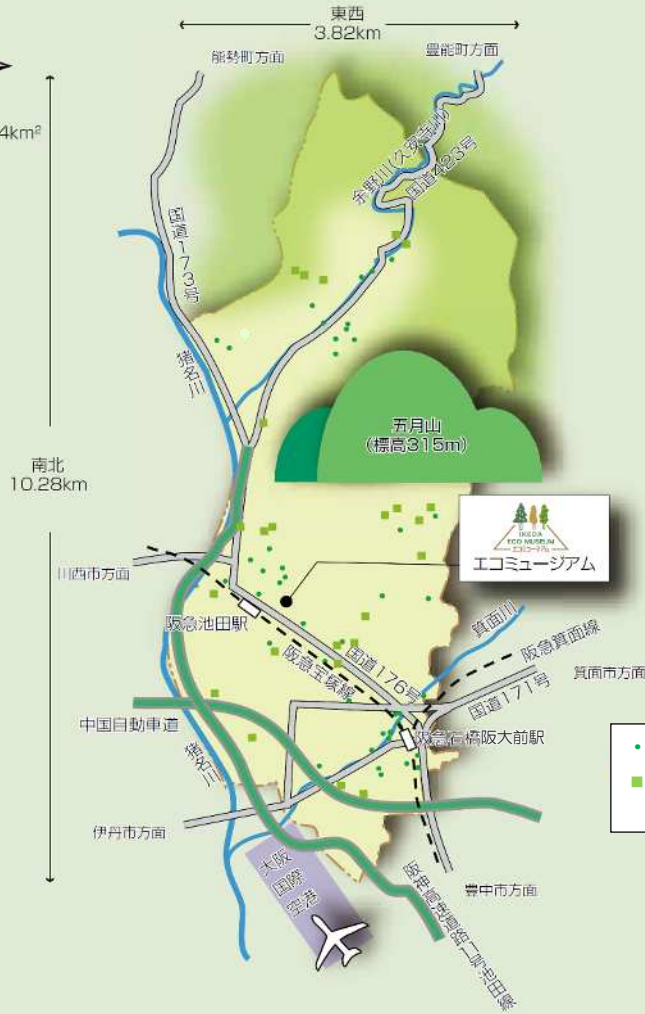
← おおさか防災ネットQRコード

携帯電話でおおさか防災ネットに受信申し込み(空メールを送信)をすれば、PM2.5が高濃度になると予測されたときにメールが配信されます。

### 次のステップに向けて

この分野は、自然環境だけにとどまらず、地域の活性化やまちづくりなど、より広い意味での「環境」施策と繋がっています。

今後も連携を継続するとともに、地域も巻き込んだ取り組みへと展開し、地域の活性化へも繋げていきます。



### 保存樹木・樹林とは…

健全かつ美観上特にすぐれている樹木又は樹林で、下記の条件を満たしているものを指します。

#### 【保存樹木 (次のいずれかを満たすもの)】

- ・地上 1.5 m の高さにおける幹の周囲が 1.5 m 以上
- ・高さが 15 m 以上

#### 【保存樹林】

その集団が生息する土地の面積が 1,000 m<sup>2</sup> 以上のもの

※池田市環境保全条例施行規則 一部抜粋

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

エスディージーズ

### 知ってる？ SDGs

2015年9月の国連サミットにおいて採択された、2016年から2030年までの国際目標です。

気候変動や格差など幅広い課題の解決をめざしています。



<p>1 貧困をなくそう</p>	<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任つかう責任</p>
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p><b>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</b></p> <p>2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です</p>

令和4年(2022年)3月発行 監修:池田市環境審議会

発行:池田市 市民活力部 環境政策課

(〒563-8666 大阪府池田市城南1-1-1/072-752-1111 (内線377) kankyo@city.ikeda.osaka.jp)